

平成18年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	健康開発技術者育成プログラム		
法人名	学校法人 福田学園		
学校名	大阪リハビリテーション専門学校		
代表者	理事長 福田 益和	担当者 連絡先	事務局 山田 豊 TEL 06-6354-0091
<p>1. 事業の概要</p> <p>健康を実現することは、元来、個人の健康観に基づき、一人一人が主体的に取り組む課題であるが個人による健康の実現には、こうした個人の力と併せて、社会全体としても、個人の主体的な健康づくりを支援していくことが不可欠である。このことは「21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21)」においても指針として挙げられている。本事業においては理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などのリハビリテーション技術者(有資格者)がどのような知識と技術を取得すれば健康開発技術者として社会に貢献できる人材になりうるかを検証する。具体的には、アドバンスセラピーを目指すカリキュラム作成を検討すると同時にe-learningの有効活用や教育的効果の高い教育方法についても検討をする。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>医師、リハビリテーション技術者に対する調査を実施する中で、個々人の健康管理(増進)を継続的にサポートする体制がないことを改めて実感した。行政、教育、職域団体、企業、地域が一体となり健康(予防)に積極的、継続的に取り組む必要があると考える。本事業においては、ニーズ調査の観点では十分な成果が得られたが、個人の健康指標の携行及び随時参照システムについては、様々な企業、自治体の調査にとどまったのが現状である。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p><健康開発基礎論科目> ライフデザイン概論、健康マネジメント概論、運動生理学、生涯医学、健康行動科学、健康社会学、社会デザイン論、健康環境開発論、健康栄養科学</p> <p><健康開発実践論科目> ヘルスプロモーション論、健康開発情報論、健康開発プログラム論実習、ヘルスプロモーション研究方法論、ストレスマネジメントシステム論、ヘルスカウンセリングシステム論、ヘルスカウンセリングシステム論実習、栄養管理学、ストレスマネジメントシステム論研究方法論、リスクマネジメント論</p> <p>③今後の活用</p> <p>リハビリテーション技術者のポストグラデュエイト及びリハビリテーション技術者の職域団体での生涯学習プログラムでの検証。</p>			

④次年度以降における課題・展開

リハビリテーション技術者が学びやすく、教育効果の高い技法及び環境の検討・開発

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

ニーズ調査実施状況

- 1)訪問調査 職域団体2箇所、病院1箇所、健康増進施設2箇所
- 2)有資格者調査 無記名式アンケート実施(約600施設送付、回答約250施設)
- 3)病院患者、医師、職員等ヒアリング
病院通院患者(29名)、医師(14名)、看護師(10名)、保健師(10名)、管理栄養士(6名)、
薬剤師(4名)、行政事務職8名、MR6名

②カリキュラムの開発

本事業の目指す健康開発技術者とは、生活習慣病及びメタボリックシンドロームを有する者、またその予備軍に対して健康・現状を維持するため、適切な運動を行う専門技術職である。それらの専門技術職養成を旨すために必要な専門実践的で学際的かつ集合的なカリキュラムについて検討した。

③実証講座

約50名のリハビリテーション技術者及び教育従事者が参加。時代のニーズにあった研究開発であるとの評価であった。

④その他

健康に係わる職種は多様であり、またその知識・技術レベルも多様である。「健康開発技術者」という新たな職種をどのレベルで統一するかについて調査・検証を継続した。